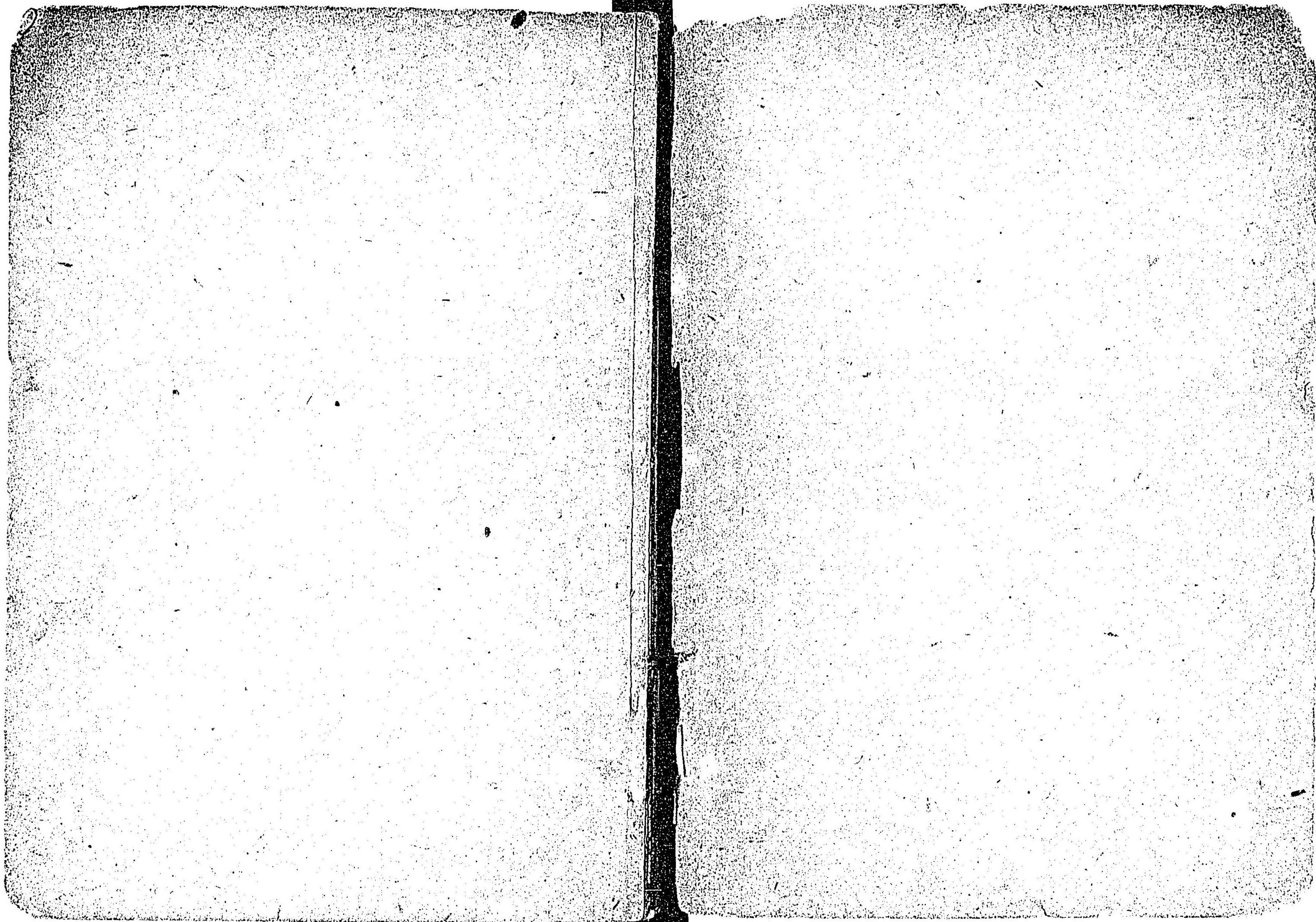


夕
3
191

下野肇編輯

官民
規則提要
必携

東京
發行書房



特62
129

東
書
香

東
京

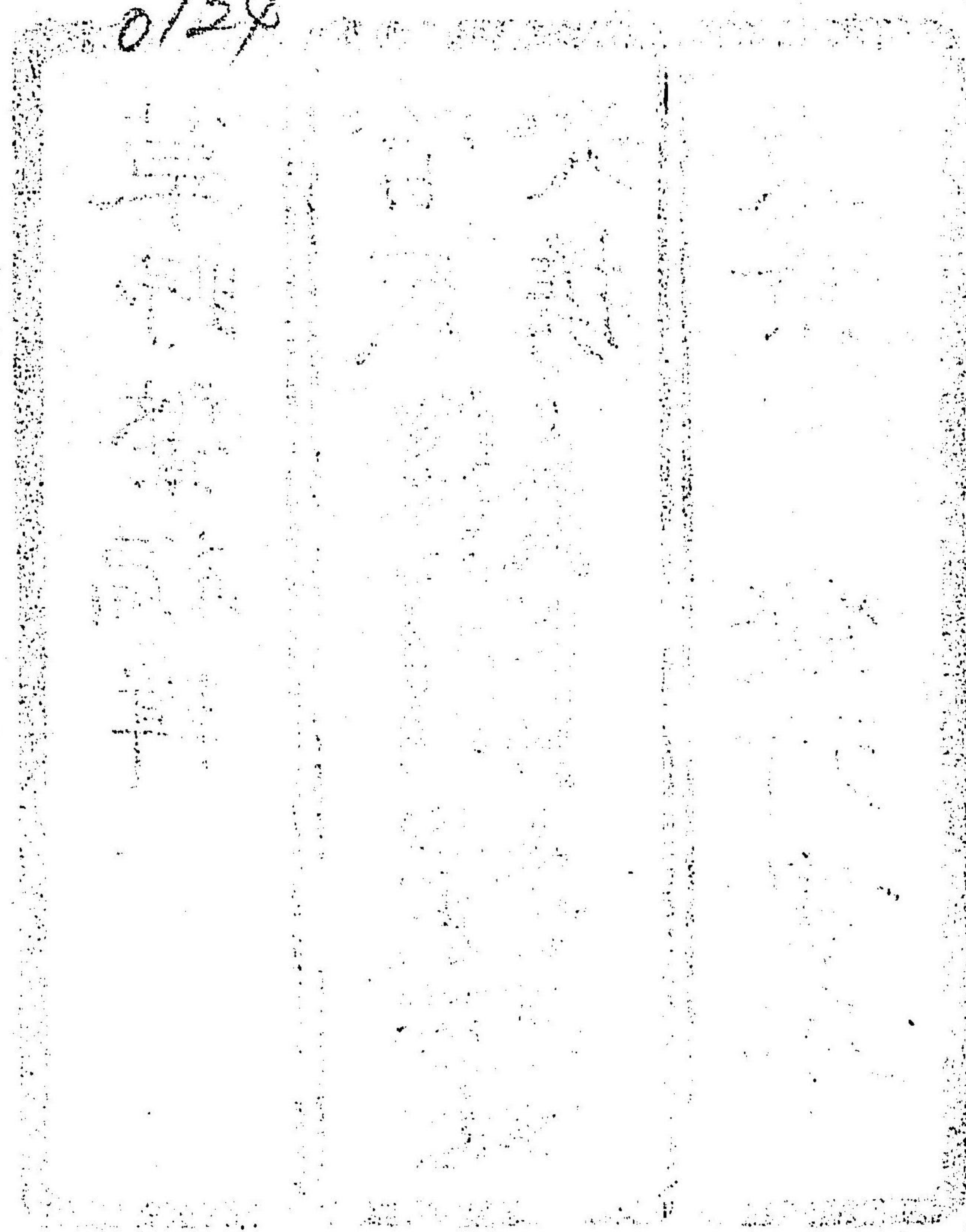
官
場

草
野
肇
編
輯

規
則
提
要

發
行
書
房

CZ
5
0124



官民規則提要
必携

目次

一出版條例并新聞條例改正	一
一寫真條例	廿五丁
一電信條例	卅九丁
一利息制限法	卅九丁
一窮民一時救助規則	四十二丁
一天然痘豫防規則	四十六丁
一度量衡規則	五十丁
一難破船及漂流物取扱規則	五十三丁

二 一 訴訟用罫紙規則

七十六丁

一 證券印稅規則

八十七丁

一 賣藥規則

百卅四丁

一 毒藥劇藥取扱規則

百五十四丁

一 酒類稅則

百六十四丁

一 車稅規則

百八十一丁

一 鳥獸獵規則

百九十三丁

一 銃砲取締規則

二百〇二丁

一 西洋形船へ大小砲設備ノ事

二百〇三丁

一 西洋形日本船各開港場出入規則

二百〇六丁

一 解漁船規則

二百十一丁

一 回漕貨物取扱條例

二百十五丁

一 船舶國旗ノ事

二百廿三丁

一 港内取締規則

二百廿四丁

官則規則提要
必携

○出版條例

○太政官第三百三十五號 明治八年 九月三日 明治五年 正文部省布達出
版條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

○出版條例

第一條

圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版セントス
ル者ハ出版ノ前ニ内務省ヘ届出ヘシ

但シ社則塾則引札ノ類印刷シテ發賣セサル者ハ此限

ニアラス

第二條

圖書ヲ著作シ又ハ外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スルキ
ハ三十年間專賣ノ權ヲ與フヘシ此ノ專賣ノ權ヲ版權
ト云フ

但シ版權ハ願フト願ハサルトハ本人ノ隨意トス故
ニ版權ヲ願フ者ハ願書ヲ差出シ免許ヲ請フヘシ其
願ハサル者ハ各人一般ニ出版スルコトヲ許ス

第三條

出版届版權願トモ草稿ヲ添ルニ及ハスト雖モ時トシテ
ハ草稿ヲ徵シ検査スルコトアルヘシ

第四條

草稿又ハ納本ヲ検査シテ世治ニ害アル者ト認ムルキハ
其出版又ハ販賣ヲ禁シ或ハ刻版ヲ毀タシムルコトアルヘ
シ

第五條

出版届版權願トモ其所在ノ地方廳 本籍又ハ寄
留ノ地方廳ヲ經由ス
ヘシ

但シ著譯者出版人其管轄ヲ異ニスル者ハ出版人所在
ノ地方廳ヲ經由スヘシ

第六條

四 圖書ノ特ニ世ニ鴻益アル者ハ版權ノ年限終ルノ後仍ホ十五年ノ延期ヲ許スコトアルヘシ

第七條

版權免許ノ爲ニ其年限ヲ記セル証書ヲ附與スヘシ年限終ルノ後ハ各人一般ニ出版スルコトヲ許ス

第八條

著譯書大部ニシテ卒業數年ニ涉リ編ヲ逐ヒ漸次出版スル者ハ每次ニ版權ヲ與ヘ年限ヲ起算スヘシ

第九條

他人ノ著譯書已ニ版權ヲ有スルモノヲ續成セント欲スル者ハ原主ニ示談ノ上連印ノ願書ヲ出スヘシ其原主死去セル時ハ相續人ヲ以テ原主ト見做スヘシ

第十條

他人ノ著譯書版權ヲ有スル者ヲ校訂シ或ハ節畧シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スルモノモ亦原主ノ承諾ヲ得サルヘカラス其出願ノ手續ハ前條ニ依ルヘシ

第十一條

既ニ版權ヲ有スル自己ノ著譯書ヲ校訂シ或ハ節畧シ或ハ註解附録繪圖等ヲ加ヘテ出版スルキハ更ニ願ヒ出ルニ非レハ版權ヲ得ヘカラス其製本ノ式ヲ改メ若クハ冊

五

六 數ヲ分合シテ改版スルニ止リ若クハ舊式ニ依テ再刻スル者ハ版權ヲ存ス

但シ届書ヲ出シ製本ヲ納ムルハ各本條ニ依ルヘシ

第十二條

著譯者死後ニ至リ其相續人遺稿ヲ出版スルコトヲ得其版權ヲ願フキハ之レヲ與フヘシ

第十三條

版權年限未タ終ラサルノ間ハ版主ノ相續人ニ傳フヘシ

但シ版權讓リ受ノ由ヲ相續人ヨリ内務省ヘ届ケ出ヘシ

第十四條

他人ノ著譯書ヲ出版スル者ハ必ス著譯者ノ承諾ヲ得ヘシ

其版權願書若クハ出版届書ニハ必ス著譯者ト連印スヘシ

第十五條

版權ヲ得タル者ハ他人其條章ヲ剽竊スルヲ許サス

但シ論辨若クハ証明スルタメニ引用スル者ハ此例ニ

アラス

第十六條

七

同時若クハ前後ニ偶然同様ノ圖書ヲ著譯シ版權ヲ願フ

八 者二人以上アルハ其ニ版權ヲ與フヘシ其事情明白ナ
ラサル者ハ專由テ検査シテ後チ之レヲ許シ或ハ許サ
ルヘシ

第十七條

外國ノ圖書既ニ甲者ノ成譯アリトイヘ乙者又之レヲ
譯シ甲者ノ誤謬ヲ正シ又ハ闕漏ヲ補ヒ及ヒ其文意ヲシ
テ一層明瞭ナラシムルノ確證アルモノ版權ヲ願ヒ出ル
時ハ検査シテ後チ之ヲ許シ或ハ許サ、ルヘシ

第十八條

著譯ノ圖書同名ノ者アリト雖モ文理不同ナルニ於テハ

妨ケナシトス

但シ表題ノ上ニ何某ト記載スヘシ
著譯

第十九條

出版ノ圖書ハ内務省ニ於テ目錄ヲ作り時々公布スヘシ

第二十條

圖書刻成ノ上ハ製本三部ヲ内務省ヘ納ムヘシ其版權ヲ
得ル者ハ外ニ免許料トシテ製本六部ノ定價ヲ納ムヘシ
納本セス及免許料ヲ出サ、ル前ハ發賣ヲ許サス

但シ出版ノ上每部定價ノ印ヲ押スヘシ

九

第二十一條

○一 出版ノ圖書ニハ著譯者ノ住所氏名ヲ記ス著譯者ノ氏名
ヲ知ルヘカヲサル者ハ其由ヲ記スヘシ而シテ何年月日出
版或ハ何年月日版權免許ト記シ版主ノ住所氏名ヲ記ス
ヘシ氏名ヲ記セスノ別號ヲ記スルコトヲ得ス

版權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分版シタル時ハ相續
人買主及ヒ分版ヲ受ケタル者ノ住所氏名ニ改ムヘシ

第二十二條

版權ノ賣買ハ勝手タルヘシ賣買スル時ハ雙方連印ノ其
由ヲ内務省ヘ届出ヘシ

第二十三條

版權ヲ分テ讓リ若クハ賣リ同一圖書ヲ各自ニ出版スル
コト妨ケナシ之レヲ分版ト名ク

但シ雙方連印シテ届ケ出ルコト前條ノ如シ

第二十四條

版權ヲ相續シ若クハ賣買シ若クハ分版シ及ヒ改版ノ届
ケ出サル者ハ其版權ヲ失フヘシ

第二十五條

願濟ノ表題ヲ變改シ若クハ納本ノ後ニ新タニ序跋ヲ加
ナル者ハ其趣ヲ届出テ更ニ納本スヘシ若シ届出ヌ又ハ
納本セサル者ハ其版權ヲ失フヘシ

第二十六條

免許狀ヲ失フ者ハ其趣ヲ届出タル上更ニ之ヲ與フヘシ
但シ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ

第二十七條

小説歌謠ヲ出版スル者亦此ノ條例ニ從フヘシ

第二十八條

雕畫ノ類ハ出版スル毎ニ届ケ出ルコト第一條ニ依ルヘシ
但シ版權ヲ與ヘス

○出版條例罰則

第一條

内務省ヘ届ケスシテ圖書ヲ出版シ及ヒ版權免許ノ名ヲ
冒ス者若クハ納本セズ及免許料ヲ出サスノ發賣スル者
ハ其刻版印本及賣得金ヲ沒收ス

第二條

凡ソ偽版ヲ作り或ハ書中ノ字句及ヒ繪圖ノ摸樣ヲ少變
シ若クハ少加シテ其表題ヲ改メ其他總テ他人ノ版權ヲ
侵シ出版スル者ハ罰金二十圓以上三百圓以下ヲ科シ其
刻板印本及賣得金ハ沒收シテ版主ニ給付ス

第三條

第一條及ヒ第二條ヲ犯スノ圖書タルイヲ知テ之ヲ發賣スル者ハ罰金五圓以上百圓以下ヲ科ス其第二條ヲ犯スノ圖書タルイヲ知テ發賣スル者ハ現存ノ圖書及賣得金ヲ沒收シテ版主ニ給付ス

第四條

無名若クハ版主ノ住所ヲ記サ、ルノ圖書ヲ出版シ若クハ發賣スル者並ニ變名偽名シ若クハ住所ヲ偽リテ圖書ヲ出版シ若クハ情ヲ知テ發賣スル者禁獄十日以上六月以下ヲ科ス

但シ沒收ノ法ハ第一條ニ依ル

第五條

凡ソ著譯ノ圖書讒謗律及新聞紙條例第十二條以下ヲ犯ス者ハ著譯者其罪ニ坐ス

但シ著譯者ハ首ヲ以テ論シ出版者ハ從ヲ以テ論ス

第六條

淫褻俗ヲ亂ルノ圖書小説歌謠彫畫ノ類淫褻ニ係ル者ハ皆同シヲ著譯シテ出

版スル者ハ禁獄三十日以上一年以下罰金三圓以上百圓

以下ヲ科ス

第七條

法司圖書犯則ノ訴ヲ受レハ即時刻版及現存ノ印本ヲ勾
收セシメ論決スルニ至テ官ニ沒ス

活版ヲ用フル者ニシテ出版人自ラ印刷ヲ管スル者若シ
ハ付スル所ノ印刷人犯狀ヲ知ル者ハ印刷器ヲ沒收ス

第八條

既ニ版權免許ヲ得ルト雖モ出版ノ上犯則ニ涉ル者ハ尙
ホ本條ニ依リ罪ヲ科ス

○附則

此ノ條例發行ノ日ヨリ出版ニ關スル從前ノ布告布達等
一切取消シ候條從前出版ノ圖書ハ此條例發行ノ日ヨリ

四ヶ月ヲ限り此條例ニ準據シ更ニ願出ツヘシ右限内願
出サルモノハ總テ版權無之儀ト心得ヘシ

從前出版ノ圖書トイヘモ版權願出ルニ於テハ免許料上
納スヘシ

但シ製本ハ納ムルニ及ハス

自今院省使廳府縣ニ於テ出版スルモノトイヘモ布告公
文及該廳ニ關スル日誌規則ノ類ヲ除クノ外ハ必ス内務
省ヘ届出ヘシ

書式畧之

七一
○内務省甲第廿號 明治八年十月二十八日 今般第三百三十五號布告ノ通

出版條例改正ニ付テハ從前發行セシ圖書トイハ淫褻
俗チ亂ルモノ及新聞條例第十二條ヨリ第十四條迄ニ係
ルモノハ來明治九年八月三十一日限り發賣差止候條此
旨布達候事

○內務省甲第廿一號 明治八年十月二十九日 出版願届書ノ氏名從前族
籍ノミ肩書致シ候處自今官位アル者ハ族籍並ニ官位ヲ
モ記入シ可差出此旨布達候事

○內務省甲第二十三號 明治八年十月二十日 圖書刻成致納本候節其
所在地方廳ヲ經由セス本人ヨリ直ニ納付ノ向ハ其旨趣
并ニ納本ノ定價等速ニ其地方廳ヘ可届出此旨布達候事

但シ版權免許ノ儀ハ必ス其地方廳ヲ經由可差出事

○文部省第貳拾五號 明治七年十月十四日 當省藏版別紙書目ノ分
刻差許候條尋常出版ノ手續ヲ以テ可願出此旨布告候事
但シ昨明治六年當省第六拾八號第百七號第百四拾號
布達ハ廢止候儀ト可相心得事

別紙書目零ス

○文部省第九號 明治八年六月十九日 當省藏版書籍翻刻之儀ニ付テ
ハ昨明治七年第二十五號ヲ以テ及布達置候處當省藏版
ノ書籍ハ自今悉皆翻刻差許候條尋常出版ノ手續ヲ以テ
可願出此旨布達候事

○二

但シ當省藏版書目ハ可及報告候事

○太政官第拾貳號 明治九年 二月九日 明治八年九月 第百三拾五號布

告出版條例中ニ第貳拾九條第三拾條同書式中ニ版權賣
賣ハ改題等ノ節免許狀裏書々式左ノ通追加シ同年十一月

第百六拾壹號布告出版屆版權願改正書式中(或ハ何年
何月ヨリ漸次出版)ヲ(内何冊ハ何年何月出版)ト改正

候條此旨布告候事

第貳拾九條

一版權免許狀附與ノ後版權賣買或ハ改題等届出ノ上離
形ノ通藏版入免許狀ニ地方廳印ヲ請フヘシ

第三拾條

一裏書餘白ナキニ至テハ更ニ免許狀書換願出ヘシ
但願出ル者ハ手数料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘ

追加

○太政官第八拾壹號 明治九年五月 三月三十一日 明治八年九月 第百三拾五號
布告出版條例中ニ第三十一條追加候條此旨布告候事

第三十一條

都合ニ因リ版權ヲ要セサル旨ヲ以テ免許狀返納スル者
ハ其手数料トシテ金三拾錢ヲ納ムヘシ

一ニ

但シ收納方ハ免許料ト同様タルヘシ

○内務省甲第十四號 明治九年 客歲九月御布告相成候出版

條例第二條但書ニ其願ハサルコトハ各人一般ニ出版ス

ルヲ許スト有之候得共出版届ノ儀ハ第一條ノ通出版ノ

前必ス當省へ可届出儀ト可相心得此旨布達候事

内務省甲第二十號 明治九年 五月九日 凡ソ新刻ノ圖書版權ヲ有シ

度者ハ出版々權共合セテ可願出若シ出版届ノミ差出後

日ニ至リ版權願出候共授與致サス候條此旨布達候事

○内務省甲第廿三號 明治九年 七月十日 昨八年九月太政官第百三拾

五號出版條例御布告以降ヨリ本年五月當省甲第二拾號布

達迄ノ際出版ノミ届出候圖書ハ來ル十月三十一日限版

權可願出若シ右期限間願出サルモノハ後日ニ至リ願出

候共授與致サス候條此旨布達候事

○内務省甲第三十號 明治九年 八月四日 版權免許ノ儀所在ノ地方廳

ヲ經由シ免許ヲ得テ後他ノ府縣ノ所屬換或ハ轉住寄留

換等ニ付燕版持轉スル者ハ別紙書式ニ準シ舊新兩地方

廳ヲ經テ當省ユ可届出此旨布達候事

但シ他府縣下ノ者エ版權讓渡ノ者モ出版前後ニ拘ラズ

書式ニ準シ届出ヘキ事

四二

○內務省甲第四拾一號 明治九年十一月十日 版權免許料ノ儀ハ出版

前ニ豫定シ相納候後免狀返納願出候向ハ自今免許證下

付ノ日ヨリ三十日以内ニ其旨願出候ヘハ免許料ハ返付

シ手数料ヲ收納スヘシ若シ右日限過去リ免許證返納願

出候トモ免許料ハ返付不致候條此旨布達候事

○天政官第四百四拾六號 明治九年十一月十八日 明治八年六月第百拾壹

號布告新聞紙條例第二條ノ第二目中無定期ノ三字削除

候條此旨布告候事

但シ從前新聞紙條例ニ據リ願濟ノ新聞紙雜誌雜報無

定期ノモノハ刷行ノ定期ヲ定メ此布告到達ノ日ヨリ

貳拾日以内ニ該管廳ヲ經テ內務省ニ可届出若期限内

ニ届出サルモノハ發行不相成候事

○內務省甲第四拾三號 明治九年十月四日 新聞紙及雜誌雜報等准允

ヲ得タル後五十日間ニ發行セサル者及休業届出ノ後五

十日間ニ再行届之ナキ者ハ並ニ准允ノ權ヲ失シ廢絶タ

ルヘシ此旨布達候事

但即今休業中ノ者ハ此布達到達ノ日ヨリ二十日限り

更ニ地方廳ヲ經由シ當省ニ届出ヘシ右日限間ニ届出

サル者ハ廢絶タルヘキ事

○寫真條例

五二

六二 ○太政官第九十號 明治九年六月十七日 寫真條例別紙ノ通相定候條

此旨布告候事

第一條

凡ソ人物山水其他ノ諸物象ヲ寫シテ專賣ヲ願ヒ出ル者ハ五年間專賣ノ權ヲ與フヘシ之ヲ寫真版權ト稱ス但シ之ヲ願ハサル者ハ別段届出ルコ及ハス

第二條

版權ヲ得タル寫真ニハ必ス每葉寫主ノ標號及ヒ定價並ニ版權免許ノ年月ヲ記載スヘシ

第三條

版權ヲ得タル者ハ寫真一版ニ付三葉ヲ納メ仍ホ免許料トシテ一版ニ付拾貳葉ノ定價ヲ納ムヘシ之ヲ納メサル前ニ發賣スルヲ許サス

第四條

出版條例第七條第十三條第二十一條ノ第二項第三十二條第二十三條第二十四條及第二十六條ハ寫真版權ニ適用スヘシ

但出版條例第二十六條但書ノ手數料ハ壹枚ニ付六葉ノ定價ヲ納ムヘシ凡ソ願届等ノ手續モ總テ出版條例

七二

ニ依ルヘシ

第五條

凡ソ圖書ヲ寫眞スル者ハ翻刻出版ノ例ニ倣ヒ都テ出版
條例ニ依ルヘシ

第六條

第三條ヲ犯シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ其現存ノ寫
眞ヲ沒收ニシ壹圓ヨリ少カラス拾圓ヨリ多カラサルノ
罰金ヲ科シ仍ホ版權ヲ追奪スヘシ

第七條

他人ノ版權ヲ侵シ寫眞ヲ覆寫シ又ハ免許ノ名ヲ冒認シ
及ヒ之ヲ發賣シ若クハ情ヲ知テ轉賣スル者ハ現存ノ寫

眞ヲ沒收シ貳圓ヨリ少カラス貳拾圓ヨリ多カラサルノ
罰金ヲ科シ仍ホ原主ノ損害ヲ償ハシム

但原主ヨリ訴出ルニアラサシハ受理セズ

○電信條例

○天政官第九拾八號 明治七年九月二十二日 電信條例別冊之通相定本
年十二月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

○日本帝國電信條例

第一條

此條例ハ日本帝國政府電信寮ニ於テ所轄スル所ノ電信
上ニ施行スルナリ

第二條

此條例中ニ用ユル電報ノ語ハ百般ノ音信總テ電機ヲ以
テ傳送シ又ハ傳送セント欲スルモノヲ指テ言フナリ

第三條

日本政府電信寮ハ日本帝國外ノ各地ヘ又ハ各地ヨリ傳
送スル電報ヲ除キ日本帝國中ニ電報ヲ傳送シ及ヒ受取
リ取集メ届後等一切關係ノ事務ヲ取扱フ專任ノ權ヲ有
ス

第四條

何人ニテモ不法故意ヲ以テ電槽器械柱木信線若シシハ
其線ヲ覆フ匣蓋管筒或ハ支凸腕木枷木陶器海底線浮標
旗竿號報柱及ヒ電機並ニ其附屬一切ノ物品ヲ毀傷スル
者或ハ此ノ電機ニテ通信ノ傳送携致又届渡シテ如何様
ナル仕方ニテモ妨碍スル者其上件ノ枷木支凸腕木ヲ拔
取ル者ハ五百圓ヨリ多カラサル罰金又ハ三月ヨリ長カ
ラサル懲役或ハ禁獄ニ處ス

但シ過誤失錯ニ出ルモノハ其損害ノ多少ニ隨テ償金

ノミチ出サシム

第五條

電機掛リ官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人ニテモ
電信寮ノ事務ニ従事スル際之ヲ改打シ或ハ粗暴ノ舉動
ヲナシ其事業ニ妨碍抗抵ヲ爲ス者ハ五百圓モリ多カラ
サル罰金又ハ三ヶ月ヨリ長カラサル懲役或ハ禁獄ニ所
ス

第六條

何人ニテモ不法ニ柱木枷木海底線信線旗竿浮標其他電
機又ハ其附屬一切ノ物品ニ馬又ハ其他ノ獸畜或ハ舟筏
等ヲ繫クモノハ其所行ニ依テ損害ノ有無ヲ論セス壹百
五拾圓ヨリ多カラサル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラザ
ル懲役或ハ禁獄ニ所ス

第七條

何人ニテモ柱木信線陶器旗竿脇木架木支凸號報柱浮標
其他ノ物品へ瓦礫若シクハ雜物ヲ投擲シ又矢箭火器ヲ
彈射スル者ハ其所行ニ依テ毀傷ノ有無ヲ論セス壹百五
拾圓ヨリ多カラザル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラサル
懲役或ハ禁獄ニ處ス

第八條

四三

何人ニテモ電線ノ近傍ニテ紙鳶ヲ飛シ信線陶器脇木枷
木支凸其他電機ニ屬スル物品ヘ紙鳶又ハ其附屬ノ糸等
ヲ引掛ケ電氣ノ妨碍ヲ生セシムル者ハ拾圓ヨリ多カラ
サル罰金又ハ七日ヨリ長カラザル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第九條

何人ニテモ不法故意ヲ以テ政府電信寮ヨリ其局々或ハ
電線沿道ノ所々ニ取建タル標識揭示等ヲ削剝シ又ハ拔
去ル者ハ五拾圓ヨリ多カラザル罰金又ハ四十二日ヨリ
長カラザル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十條

何人ニテモ不法ニ電機用一部分タル柱木旗竿信線支線
支柱ヘ攀ギ又ハ同様ノ浮標ニ乗ル者ハ其所行ニ依リテ
妨害ノ有無ヲ論ゼズ貳拾五圓ヨリ多カラザル罰金又ハ
二十一日ヨリ長カラザル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十一條

何人ニテモ不法故意ヲ以テ柱木浮標其他一切電機附屬
ノ物品ヘ落書圖繪又ハ鐫刻スル者ハ拾圓ヨリ多カラザ
ル罰金又ハ七日ヨリ長カラザル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十二條

五三

電機係官員及ヒ改役或ハ其他ノ官員又ハ何人ニテモ他

六三

人へ届渡スへキ電報ヲ故意ニ以テ隠匿シ又ハ電信寮ヨリ電報ヲ届渡ス可キ命令ヲ怠リ或ハ肯セザル者ハ五拾圓ヨリ多カラザル罰金又ハ四十二日ヨリ長カラザル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十三條

電信寮ニ仕官スル者故意怠慢ヲ以テ音信ノ傳送又ハ届渡ス事ヲ忘却遅延スル者又ハ同様ノ事ニ依テ音信ノ傳送届渡シテ妨碍遅延セシムル者又ハ猥リニ音信ノ旨趣ヲ傳洩スル者又ハ他ノ人民又ハ電信寮ノ官員ト雖モ其場ニ立入ル可キ職務ニアラザル者ヲ電信寮ノ器械室ニ

立入ラセ又ハ滯居セシムル者等以上各犯ハ壹百圓ヨリ多カラザル罰金ニ處ス

第十四條

凡此條例中ニ記載シタル箇條ヲ顯然犯サント企ル者五拾圓ヨリ多カラザル罰金又ハ四十日ヨリ長カラザル懲役或ハ禁獄ニ處ス

第十五條

凡此條例ヲ犯シテ電信寮所轄ノ物品ヲ毀傷シ又ハ他人ノ損失妨害ヲ生スル者ハ例ニ照シ處分スルノ外其毀傷損失ノ償金ヲ出サシム

七三

但工部省所管電信私線ノ分モ總テ此條例ニ準シ處分
ス

第十六條

凡犯人ヲ處斷シ罰金並ニ償金ノ額ヲ定ムルハ總テ裁判
官ノ權内ニ屬ス

第十七條

凡犯人ノ刑狀ヲ裁判官ニ報告シ其處分ヲ乞フ手順ハ工
部省ニテ取扱フノ權ヲ有ス

○利息制限法

○太政官第六十六號 明治十年九月十一日 利息制限法左ノ通相定候

條此旨布告候事

○利息制限法

第一條

凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ
利息トス

第二條

契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所
ノ利息ニシテ元金百圓以下ハ一年ニ付百分ノ二十割ニ

○四

百圓以上千圓以下百分ノ十五一割千圓以上百分十二一割

分以下トス若シ此限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノ

トシ各其制限ニマデ引直サシムヘシ

第三條

法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高ヲ定

メザルモ裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ

拘ラス百分ノ六六トス

第四條

第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ

禮金棒利等ノ名目ヲ用ル者アルモ總テ裁判上無効ノ者

トス

第五條

返還期限ヲ違フルモハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償

金罰金違約金科料等ヲ差出スヘキト約定スルコトアル

モ概シテ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事

實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルモ之ノ

ニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

○窮民一時救助規則

○太政官第三百三拾貳號 明治八年七月

第一條

水火風震ノ難ニ逢ヒ家産蕩燼流失シ目下凍餒ニ迫ル者
一男一人一日玄米三合（麥ハ六合雜穀ハ九合但七十以
上十五歳以下ハ女ノ割ヲ以テ給ス）女一人一日玄米二
合（麥ハ四合雜穀ハ六合）ノ積リヲ以テ十五日分速ニ
救助スヘシ但シ身元可ナリノ者ハ此例ニ入ルヲ許サス

第二條

同斷自ラ小屋掛ヲ營ム能ハサル者一戸金五圓充五ヶ年

賦返納ノ積ニテ貸渡スヘシ假令ハ明治八年七月一日ヨ

リ十二月三十一日迄ハ其年（明治八年七月ヨリ同九年

六月迄ヲ云）同九年一月一日ヨリ六月三十日迄ハ翌年

（同九年七月ヨリ同十年六月迄ヲ云）ヨリ返納ノ積其災

一等輕キハ一戸金三圓宛前同様貸渡スヘシ尤借家住居

或ハ同居ノ者ハ此限ニ非ス

第三條

同斷農具差支ノ者ハ鋤鎌馬鋤稻扱肥桶等其土地相當
ノ價取調代金貸渡ス前條ノ例ノ如クスヘシ但多キモ

一戸拾圓ヲ踰ユ可ラス

第四條

流行病ニ罹リ目下飢餓ニ迫ル者アラバ第一條ノ例ニ處
ノ後其事情ヲ具シ速ニ内務省ヘ届出ヘシ

第五條

連村連市一時ニ暴災ニ罹リ目下窮困ニ迫ル者十日以内
ハ焚出米ヲ給與シ其災害ノ畧況ニ因リ假ニ小屋掛ヲ營
ミ一時ノ急ヲ救フ適宜タルヘシ假令ハ洪水ニテ數村一
面水湛ヘ家屋ハ流亡シ人畜ハ死傷スル等ノ如キ暴災ニ
ハ小屋掛ヲ營ミ焚出米ヲ與ルノ類以上ノ數件ハ伺出ニ
及ス豫備金ノ内ヲ以テ速ニ施行シ其時々詳悉内務省ヘ

可届出ハ勿論罹災ノ月日金員等無遺漏記載スヘシ

但金員受取方ノ儀ハ兼テ布達ノ通三ヶ月分宛大藏省

ヘ申出ヘシ

第六條

天災地變ニテ夫食糧粉貸渡ノ事

第七條

耕牛馬非常ノ災變ニ斃シ代價拜借ノ事以上ノ二件ハ時
々其事情ヲ審具シ内務省ヘ經伺ノ上施行スヘシ

六四

○天然痘豫防規則

○内務省甲第十六號 明治九年五月十八日 天然痘預防規則別紙之通

相定候條其方法細目並ニ右ニ關スル費用收集支給等ノ儀ハ各地方ノ便宜ニ從ヒ精々普及候様可取計此旨布達候事

第一條

小兒初生七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ必ス種痘スヘシ若シ事故アリテ此期ニ後ル、モノハ其次第ヲ醫務取締若クハ區長ニ届クヘシ

但初種ノ後五年或ハ七年ニ再三種ヲ試ムヘシ

第二條

種痘シタル者ハ必ス其種痘醫ヨリ種痘濟ノ證書ヲ請ケ取り置クヘシ

但天然痘變痘ニ感シタルモノモ本文ニ準シテ醫師ノ證書ヲ請ケ取り置クヘシ

第三條

醫務取締若クハ區長ハ初種ノモノ再三種ノモノ及ヒ事故アリテ種痘スル不能ハサルモノ等夫々検査シ地方廳ニ届ケ出ツヘシ

七四

第四條

八四

地方廳ニ於テハ醫務取締若シハ區戸長ノ届書ヲ以テ
半ケ年分ツ、取纏メ毎年三月九月内務省ニ出ス可シ

第五條

送藉ノ時ハ必ズ第二條ニ掲クル醫師ノ証書ヲ所持スヘ
シ

但滿二十五年以上ノモノ並天然痘濟ノ証跡アルモノ
ハ此限ニアラス

第六條

管内ニ於テ天然痘流行スルキハ管廳ヨリ流行ノ緩急病
症ノ輕重等ヲ接近ノ府縣ニ報告シ且内務省ニ届ケ出ツ

可シ

第七條

前條ノ際ニ臨テハ未痘兒ハ勿論種痘濟ノ者ニ至ル迄年
齡期限ヲ問ハス普ク接種スヘシ

但未決既決監獄懲留ノ囚徒ハ本條ニ準シ官ヨリ接種
セシムヘシ

第八條

第一條及ヒ第二條ノ旨ヲ遵守セス或ハ無稽ノ説ヲ唱ヘ
種痘ヲ拒ミ若クハ人ヲ蠱惑スル等ノ者ハ違式註違ヲ以
テ論シ罰金ヲ科ス可シ

九四

○度量衡

○五

○太政官第拾七號 明治九年二月十九日 度量衡三器別紙種類表ノ

通改定候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

○度量衡改定規則

第一條

三器改正ニ付各地方ニ三器製作所並賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ルル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ枱坐秤坐ハ同日ヨリ廢止候事

第二條

各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ルル三月

十五日ヨリ十二月廿五日マテニ右改所へ差出シ檢査ヲ

請クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用ユルコト

ヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入り用器ヲ視察スヘキ事

キ事

但改所ニ於テ檢査ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢

スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ

第三條

製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ枱ハ芋烏芋等

ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

一五

第四條

尺度秤量ノ目ヲ盛直シ榑ノ縁鉄弦鉄ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所ヘ差出スヘク秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候儀不相成事

第五條

舊新器共檢印アルヲ賣拂度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事但秤ノ錘皿又ハ榑ノ縁鉄弦鉄等ヲ取離シ古鉄トシテ賣買スルハ苦シカラズ

第二條第六條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照

シテ處斷スヘキ事

○難破船及漂流物取扱之事

○太政官第六十六號 明治八年四月廿四日 内國船難破及ヒ漂流物取

扱規則別冊之通相達候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事

但本年ヨリ浦高札ハ廢止候事

(別冊)

四五

○内國船難破及漂流物取扱規則

第一條

諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬スル諸費用之立方ハ總テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ

第二條

各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管廳ヨリ區戸長其他用係リ等ノ内チ以テ適宜ニ浦役人チ申付置ヘシ

第三條

諸通船難風ノ爲ニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹候節ハ最寄

之者見附次第直チニ浦役人ニ報知シ且浦役人ヨリ指圖

無之ニ速ニ助船チ出シ救助法精々盡力致ス可シ

但シ救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル

者ヨリ頼談無之内ハ猥リニ船中ノ物品チ積ニ移ス可

カラス

第四條

浦役人ハ難船チ見付或ハ其報知チ得ル時ハ速ニ其乗組人及ヒ船體積荷チ救助保安スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鐘等打鳴ラシ人數チ呼聚メ且近隣ノ船持ニ申付助船チ出サシム可シ

五五

六五

第五條

少人數ニテ救助シ得ヘキ時ハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節ニ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛カラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ早速人數ヲ退散セシム可シ

第六條

保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最安全ニシテ且便利ノ場所ニ之ヲ置クヘシ尤モ小屋掛ヲ要シ番人ヲ差置ヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲナシ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ

第七條

難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知スヘシ

第八條

難破物ヲ保安スル者ヘハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ハス可シ

- 第一 海内ニ漂流スル物品ハ其二十分一
- 第二 海中沈没スル物品ハ其十分一
- 第三 川面ニ漂流スル物品ハ其三分一

七五

但シ其持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケ
ナシ

第九條

浦役人ハ救助ノ爲メ集リタル人数及ヒ救助ノ爲メニ出
シタル小船現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ是ニ就テ盡力シタ
ル證跡顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等
ヲ割渡ス可カラス

第十條

保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ汐入水滯レ等
ノ爲ニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上浦役人及ヒ

船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ之
ヲ入札拂ヒニ爲スヲ得ヘシ

但シ本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ヘン丈ケ最寄
ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニ
テ之ヲ爲シ且其物品目錄及ヒ買人ノ證書并ニ其附直
段ノ第三番迄ヲ取置ヘシ

第十一條

保安物ヲ賣拂ヒタルキハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲
載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシム可シ

第一 保安料

第二 救助ノ節働人足賃及ヒ小船賃
 第三 保安物ノ爲ニ取設タル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃錢

第四 乘組ノ者怪我人有之節其療養入費

第五 同前ノ者溺死スル時其搜索入費

第六 同前ノ者溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸入費ノ高ヨリ少キハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フ可モノモ無之ハ第十五條ニ照準シテ處置スヘシ

第十二條

左ニ掲載シタル諸入費之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨ

リ出サシメ其一分ハ之ヲ其管内民費トナスヘシ

第一 難船取扱中浦役人ノ日給

第二 浦方ニ於テ難破ノ爲メニ費シタル薪炭蠟燭及

ヒ筆紙墨代

第三 浦方ヨリ管應其外等へ發シタル電信郵便及ヒ

飛脚賃

第四 救助人溺死シタルハ其搜索入費

第五 同前ノ者死傷スルハ治療埋葬入費

第十三條

難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必要
品代料又ハ歸郷旅費等ヲ貸遣シタル時ハ證書取置キ第
十九條ノ通精算書中ニ記載シ追テ本人ヨリ償却セシム
ヘシ

第十四條

大難船ノ節諸費用割賦ノ儀ハ 船体皆破沈没乗組人ノ死
荷主船主立會決算 去及ヒ荷ノ大損害ヲ生シ
ヲ要スル等ノモノ現場ノ救助方ヲ除クノ外各般ノ處置
ハ其管廳ニ申立テ其筋出張官員差圖ヲ受ク可シ尤小難
船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ
者二名以上合議ノ上之ヲ決スルヲ得ヘシ

第十五條

船体積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於
テ其救助ノ爲メニ許多ノ雜費相掛リ候共船主荷主ヨリ
之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用之分ハ官費ヲ
以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署
押印シテ管廳ヘ差出ス可シ

第十六條

危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノ爲ニ盡
力シテ死傷ニ至ル者アルキハ必ス管廳ヘ届出可シ其事
實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞譽或ハ手當金ヲ給スヘシ

第十七條

總テ浦役人及ヒ船長合議ノ上處置シタル時ハ其事柄ヲ
詳細ニ記シタル証書二通ヲ作り之ニ連署押印シ其一通
ヲ船長ヘ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保チ置ヘシ

第十八條

二名以上浦役人合議ノ片ハ其内壹名ハ必ス他村ヨリ出
スヘシ

第十九條

難船救助ニ屬スル諸費用ハ二名ノ浦役人及船長其他重
立乗組ノ者二名以上立會之上第十一條第十二條第十三

條第十五條ニ照シテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成可ク
速カニ精算書ヲ作り之ニ難破明細書ヲ添テ管廳ニ差出
シ其檢査ヲ受ク可シ

第二十條

前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速カニ調査ヲ遂ケ不審ノ廉
無之片ハ早速下ケ渡ス可シ然ル上浦役人ハ第十五條ニ
記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金
致サスヘシ若其節時辨金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶
豫スヘシ

但シ民費ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人ヘ下渡ス可シ

第二十一條

洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以浦証文ヲ願出ル
時ハ二名以上ノ浦役人立會之上船長及乗組ノ者二名以
上ヲ別々ニ取調べ其實跡アルカ又ハ航海日記アル者ハ
之ニ照シ各々符合スル時ハ浦証文ヲ作り連署調印シテ
之ヲ船長ニ付與シ寫ヲ以管廳ニ届出ヘシ

但浦証文中左ノ箇條ヲ載スヘシ

- 第一 難破ニ逢タル場所其時日及ヒ風波ノ模様
- 第二 破損ノ箇所
- 第三 打荷ノ種類箇數并ニ他ノ積荷ノ種類

第四 船號及免狀ノ番號并船主船長ノ本貫苗字名乘

組人數

第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫

第六 仕出シ地及ヒ仕向地ノ港名

第七 乗組ノ内死傷有之キハ其本貫田字名年齢

第三十二條

軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡力
シテ救助ス可シ其難破ノ大小ニ拘ラス其旨ヲ直チニ管
廳へ報知スヘシ

第二十三條

八六

前條ノ救助ニ屬スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直チニ受取ヘシト雖モ總テ管廳ノ指揮ヲ受クヘシ但シ第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フ可シ

第二十四條

貢米及ヒ其他ノ官物ヲ積入候船難破ニ及ビ候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管廳へ申立之上其指揮ヲ受ク可シ

但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所へ郵便行囊ヲ至急引渡スヘシ

第二十五條

難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五拾錢ヨリ多カラス拾錢ヨリ少ナカラサルモノトス難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニヨリテ同シカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置クヘシ

第二十六條

船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生ズル時ハ右損失ヲ其者ヨリ償却セシム可シ若シ其災厄人智ノ前知ス可カラス人力ノ豫防ス可カラサルコト出

九六

○七

ルヲ瞭然明證スル時ハ此限ニアラス

第二十七條

浦役人船長其他救切ノ者ト申合セ其保安シタル難船物
ヲ沈没ト偽リ拵カニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可
シ

第二十八條

凡テ難船ノ節救助ニ托シテ積何船具其他ノ物品ヲ竊盜
或ハ掠奪スル者又ハ其竊盜掠奪ニ與スル者或ハ其本犯
ヲ陰匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ
照シテ處分ス可シ

第二十九條

以下漂着ノ部

凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂着船ヲ
見附ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知ス可シ浦役人ハ其調書ヲ
作リ之ヲ其管廳へ届出可シ

第三十條

乗組ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ摸樣等ヲ精
細ニ書記ルシ其漂着物ハ其品名箇數等精細ニ書記ルシ
其漂着近傍人民輻輳ノ地ノ揭示場及ヒ船政所へ六十日
間張出可シ尤モ漂着物ノ代價貳拾圓以上ト思量シ或ハ
貳拾圓以下タリ共必要ノ品拵ト思量スル時ハ其管廳ニ

一七

リ三府五港ノ管廳及ヒ稅關へ報告シテ張出シテ成シ或ハ新聞紙ニ載セテ公告ス可シ

第三十一條

漂着物ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ三分ノ一ヲ取揚ケ主ニ與へ其現品ハ持主ニ返還スル事

但持主ノ情願ニヨリ現品賣拂其代金ニテ受取ルコトヲ得可シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其取揚主ニ與へ一半ハ官ニ収ムル事

但シ三ケ年以内ニ其持主知レタル時ハ官ニ収ムル部分ハ下戻ス可シ

第三十二條

乗組人無之漂着船ノ持主知レタルキハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ケ年以内ハ其見積代價ノ十分ノ一ヲ見附主ニ與へ其船ハ持主ニ返還スル事

但書ハ前條第一項ニ同シ

第二 一ケ年ヲ過クレハ之ヲ公賣シ其代價ノ三分ノ一ヲ見附主ニ與へ其餘ノ二分ハ官ニ収ムル事

但書ハ前條第三項ニ同シ

第三十三條

前條ニ記スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ條ト牴觸スルコトナカル可シ

第三十四條

凡漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照シ浦役人ノ奥印シタル証書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償却ス可シ

第三十五條

洋中ニ於テ難破イタシ桅檣其他ノ船具ニ取附キ海岸ヨ

漂着致シ候者有之節ハ浦役人ヨリ一通り取調ヘ相當ノ保護ヲ加ヘ置直チニ管廳ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤モ本人歸郷ノ旅費其他ノ手當等貸遣ハシ候節ハ第十三條ノ通追テ本人ヨリ償却セシム可シ

第三十六條

凡漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナシ其物品ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第二十八條ニ照シテ處分ス可シ

第三十七條

暴風洪水等ニテ漂流シタル材木物品等ヲ保安スル時ハ

此漂着物ノ規則ヲ通シ用ユヘシ

○訴訟用罫紙規則

○太政官第百九拾六號 明治八年十月二十日 訴訟用罫紙規則別冊之通相定來明治九年二月十五日ヨリ施行候條此旨布告候事

○訴訟用罫紙規則

第一條

凡訴訟ヲ生シ公裁ヲ仰カントスレハ此規則第九條中第一項第二項第三項第四項ニ照準シ原被告人共裁判官ニ差出ス訴答及ヒ証書ノ寫等一切ノ書面ハ其類ノ罫紙ヲ用フヘキ事

但訴答等ノ表紙書式等ハ訴答文例之通タルヘキ事

第二條

訴答文例中原告人へ取ベキ被告人住所書付並此書付ヲ得ル爲メ町役場ノ文通ハ第九條中第五項ノ罫紙ヲ用フヘキ事

第三條

八七

訴訟中其事ニ關シ證據ニ爲サントスル原被告人互ノ文
通モ第五項ノ野紙ヲ用フヘシ若シ此野紙ヲ用ヒサル者
ハ裁判上證據タルノ効ナキ者トスヘキ事

第四條

人民ヨリ官府ニ關涉スル訴訟ニ付官府ヨリ裁判官ニ差
出ス書面モ同シク此規則ニ照シ野紙ヲ用フヘキ事

第五條

以上掲ル野紙ヲ用ヒサル書面ハ裁判官受理セサル事

第六條

裁判所ヨリ原被告人或ハ引合人等呼出狀ハ都テ第五項

ノ野紙ヲ用フヘキ事

第七條

訴訟用野紙ハ買求差支無之様各府縣管下適宜ノ場所ヘ
賣捌所相設クヘキ事

第八條

賣捌所ハ訴訟用野紙賣捌所ト大書シ官ノ焼印アル看板
ヲ掲クヘキ事

第九條

訴訟用野紙用方並種類定價左之通

九七

第一項 金穀之類

金拾圓

米五石

雜穀拾石

未滿

黃色野紙

定價壹枚金壹錢

但シ壹枚拾六行一行十五字詰以下皆同シ

金拾圓以上百圓

米五石以上五拾石

雜穀拾石以上百石

未滿

黃綠色野紙

定價壹枚金貳錢

金百圓以上五百圓

米五拾石以上貳百五拾石 未滿

雜穀百石以上五百石

橙黃色野紙

定價壹枚金三錢

金五百圓以上千圓

米貳百五拾石以上五百石 未滿

雜穀五百石以上千石

綠色野紙

定價壹枚金四錢

金千圓

米五百石

雜穀千石

以上

黑色野紙

定價壹枚金五錢

第二項 人事之類

但家督相續養子雇人等ノ事ニ關スル訴訟ヲ云フ

青色野紙

定價壹枚金壹錢六厘

第三項 土地並建物之類

但地所境界田畑建家等ノ訴訟ヲ云フ

紫色野紙

定價壹枚金壹錢四厘

第四項 雜事之類

但以上三項ニ關セサル一切ノ訴訟夫云フ

紅色罽紙

定價壹枚金壹錢貳厘

第五項 交通ノ類

但裁判所ヨリ原被告人等呼出狀其外町役場
及原被告人ノ交通

緒色罽紙

定價壹枚金五厘

第十條

裁許狀罽紙ノ種類定價左之通

第一項 金襞之類

金拾圓

黃色罽紙

米五石

未滿

定價壹枚金貳錢

雜穀拾石

但シ壹枚十二行一行十二字詰以下皆同シ

金拾圓以上百圓

黃綠色罽紙

米五石以上五拾石

未滿

定價壹枚金三錢

雜穀拾石以上百石

金百圓以上五百圓

橙黃色罽紙

米五拾石以上貳百五拾石 未滿

定價壹枚金四錢

雜穀百石以上五百石

金五百圓以上千圓

綠色罽紙

米貳百五拾石以上五百石 未滿

定價壹枚金五錢

雜穀五百石以上千石

金千圓
米五百石
雜穀千石

以上

黑色野紙

定價壹枚金六錢

第二項 人事ノ類

青色野紙

定價壹枚金三錢貳厘

第三項 土地並建物ノ類

紫色野紙

定價壹枚金貳錢八厘

第四項 雜事ノ類

紅色野紙

定價壹枚金貳錢四厘

第十一條

裁許狀ハ其類ニ照準シ此野紙ヲ用フヘキ事

第十二條

訴訟中裁判所ヨリ原被告人等呼出ニ用フル野紙員數ノ定價及原被告人ヘ下附スル裁許狀野紙員數ノ定價ハ曲者ヨリ三日内ニ裁判廳ヘ辦納スヘキ事

第十三條

官許賣捌所ノ外ニテ訴訟用野紙ヲ販賣スル者ハ其品取

上ク販賣シタル郵便代ノ百倍又其情ヲ知テ之ヲ買フ者
ハ其品取上ケ買受ケタル郵便代ノ五十倍過料可申付事

第十四條

郵便ヲ贗造スル者又ハ贗造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル
者ハ都テ其品取上ケ九拾圓以内ノ過料可申付事

第十五條

前條ニ掲ル犯則人ヲ見認メ訴出ル者ハ事實取糺シ相違
ナキニ於テハ賞トシテ其過料ノ半高下ケ與フヘキ事

○證券印稅規則

○太政官第八拾一號 明治七年七月 明治六年二月 第五拾六號以
下追々及布告候證券印紙規則總テ相廢シ更ニ別冊之通
相定メ本年九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但帳簿罰則ハ來ル明治八年一月一日ヨリ施行候儀ト
可相心得事

○證券印稅規則

第一則綱領

第一條

凡人民財產ノ受授並ニ交際上相用候證書帳簿類ハ都テ

此規則之通證券 ○印紙ヲ相用ユヘキ事

第二條

總テ規則之通證券 ○印紙ヲ用ヒサル者ハ後日如何弊ノ故障差起出訴ニ及ヒ候共其書類ハ一切取揚ケ裁判不相

成事

第三條

證券 ○印紙買求差支無之様各府縣管下適宜ノ場所へ賣捌所相設置候條下條ニ掲載セル定價ヲ以テ買取ヘキ事

第四條

賣捌所ハ證券印紙賣捌所ト大書シ官ノ燒印アル看板ヲ

掲シル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁ノ事

第五條

印紙ノ種類定價左之通候事

淡黑色印紙 定價金壹錢

薄赭色 全 同 五錢

青色 全 同 拾錢

黃色 全 同貳拾五錢

橙黃色 全 同 五拾錢

紅色 全 同 壹圓

深紫色 全 同 五圓

○九

深紅色 全

同 貳拾圓

第六條

證券界紙ノ定價左之通候事

大判界紙

定價七厘

中判 全

同 五厘

小判 全

同 三厘

右之界紙ハ大中小判ノ三種アリト雖モ其證書ノ文義長短ニ因リ便宜ニ任セ何種ヲ相用フルモ適宜タルヘキ事

○第二則諸證書

第一條

諸證書ヲ分テ三類トス

第一類諸證書

一 賣品並職業ニ管スル金錢受取書

右之受取書ハ金高拾圓以上總テ壹錢ノ印稅拾圓未滿ハ

印紙界紙ヲ用フルニ及ハス

一 預リ金 ○ 證文 ○ 手形

一 耕地小作證文

一 遺金證文

右之證書類ハ金高拾圓以上ハ總テ一錢ノ印稅拾圓未滿

一九

ハ界紙ヲ用フヘシ

- 一 質物 ○預り書
- 小札

右之證書ハ金高拾圓以上ハ壹錢ノ印稅拾圓未滿ハ印紙
界紙ヲ用ルニ及ハス

- 一 諸會社株手形
- 一 荷物送り狀
- 一 荷物預り證書
- 地所讓與證書
- 建家讓與證書
- 一 物品讓與證書
- 一 公債證書類與讓證書
- 一 跡式讓狀

右之證書類ハ金高ニ拘ハラズ總テ壹錢ノ印紙

第二類諸證書

- 一 借入金證文
- 一 預り金 ○證文
- 手形

但使用ヲ爲サザルノ明文無之ヲ

- 一 地所並建家賣渡證文
- 一 地所並建家 ○質入
- 書入証文
- 一 公債證書類賣買證文
- 一 諸品 ○質入
- 書入證文
- 一 爲換手形並置手形

- 一 荷爲換手形
- 一 諸請負証文
- 一 金錢約定証文
- 一 金錢約定爲取換証文
- 一 米穀並諸品賣買約定証文
- 一 米借用証文
- 一 雜穀借用証文
- 一 賣買用諸品代價拾圓以上借用証文
- 一 借地証文
- 一 借家証文

- 一 金拾圓以上記載雇人請狀
- 一 諸賣買証據金預リ手形
- 一 諸敷金証文

右之証書類ハ

金高拾圓未滿
書面米高五石未滿
雜穀高拾石未滿

界紙ヲ用フベシ

金高拾圓以上二十圓未滿
同斷米高五石以上拾石未滿
雜石高拾石以上廿石未滿

印稅壹錢

金高廿圓以上三十圓未滿
同斷米高拾石以上十五石未滿
雜穀高廿石以上卅石未滿

同 貳錢

金高三拾圓以上四十圓未滿
書面米高拾五石以上二十石未滿
雜穀高卅石以上四十石未滿

同 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタ

スヘシ

第三類証書

一 諸酒切手

右之切手ハ

升目壹升未滿

界紙ニ及ハス

同壹升以上

印稅壹錢

壹斗未滿ハ

同壹斗以上
貳斗未滿ハ

同 貳錢

同貳斗以上
三斗未滿ハ

同 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタ

スヘシ

一 食類切手

右之切手ハ

代金高貳拾五錢未滿

界紙ニ及ハス

同貳拾五錢以上

印稅壹錢

貳圓五拾錢未滿

同貳圓五拾錢以上
五圓未滿

同 貳錢

同五圓以上

同 三錢

拾圓未滿ハ

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタ
スヘシ

一 米油醬油其外諸品賣買切手

右之切手ハ

代金高貳拾五錢未滿

界紙ニ及ハス

同貳拾五錢以上

印稅壹錢

五圓未滿

同五圓以上

同 貳錢

拾圓未滿

同拾圓以上

同 三錢

貳拾圓未滿

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致ス
ヘシ

一 荷物受取書

右之受取書ハ送狀附添ハサル分ハ界紙ニ及ハス送狀附
添ノ分ハ界紙ヲ用フル歟又ハ印紙貼用ノ荷物判取帳ニ

記スヘシ

一金高記載無之 ○約定証書類
○雇人受狀類

右之証書類ハ總テ界紙ヲ用フヘシ

第二條

証書ハ總テ証書渡主ニテ印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ
其印紙ノ全面滅却サセル様第一號圖之通調印致スキヘ

事

第三條

院省使府縣ノ官印或ハ諸官吏ノ公務ニ依リ調印セル受
取書証書類ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事

第四條

租稅並ニ賦金及ヒ區入費取立ノ節區戶長ヨリ相渡候受
取書ハ界紙ヲモ用フルニ及ハサル事

第五條

官祿家祿賞典祿救助受取書又ハ裁判請書及ヒ訴訟濟口
証文等ハ都テ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事

第三則諸帳簿

第一條

諸帳簿類分テ三類トス

第一類諸帳簿

- 一金錢判取帳
- 一質物通帳
- 一金錢當坐預リ通帳

右ノ帳簿類ハ

- 附込見積金高百圓未滿印紙貼用ニ及ハス
- 同斷金高百圓以上 印稅壹錢
- 貳百圓未滿
- 同斷金高二百圓以上 同 貳錢
- 三百圓未滿

二〇一

同斷金高三百圓以上
四百圓未滿

同 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致ス
ヘシ

第二類諸帳簿

一 質物臺帳

一 金錢一時〇貸通帳
〇借通帳

一 商賣品當坐〇貸通帳
〇借通帳

一 諸品損料帳

一 金錢預リ通帳

但使用ヲ爲サザルノ明文無之分

右之帳簿類ハ

附込見積金高百圓未滿印紙貼用ニ及ハス

同斷金高百圓以上 印稅五錢
貳百圓未滿

同斷金高貳百圓以上 同 拾錢
三百圓未滿

同斷金高三百圓以上 同拾五錢
四百圓未滿

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致ス
ヘシ

第三類諸帳簿

一 荷物判取帳

一 諸品判取帳

三〇一

四〇一

右之帳簿ハ附込ノ箇數ニ拘ハラズニケ年ニ付印稅貳拾錢

第二條

○第一類帳簿へ印紙貼用ノ儀ハ一ケ年以上附込へキ見
○第二類帳簿へ印紙貼用ノ儀ハ一ケ年以上附込へキ見
積金高ヲ以第三號書式ノ通帳簿ノ初丁へ自身ニ相記シ
其金高ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ調印致
スヘキ事

但帳簿初丁へ記シタル附込見積金高相滿候迄ハ何ケ
年相用候トモ苦シカラサル事

第三條

第三類ノ帳簿へ印紙貼用ノ儀ハ其帳簿可相用年限ヲ見
積リ第四號書式之通帳簿ノ初丁へ自身ニ相記シ其年限
ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ調印致スヘキ

事

但帳簿ノ初丁へ記シタル年限相滿候迄ハ何箇數附込
候トモ苦シカラサル事

第四條

一旦印紙貼用ノ○第一類帳簿附込見積金高相滿候歟又
○第二類帳簿附込見積金高相滿候歟又
ハ第三類帳簿年限相滿餘白ノ紙數有リテ再用セント欲
スル者ハ尙其帳簿ニ應シ○第三號書式ノ通改テ書記シ
○第四號

五〇一

印紙貼用致スヘキ事

第五條

第二類ノ証書ヲ若シ便利ノ爲帳簿ニ相綴リ書載候儀不
苦候得共其帳簿ハ其附込ノ廉毎ニ第二則第一條ノ通印
紙貼用致スヘキ事

第六條

印紙貼用ノ諸帳簿ハ其掛リ官員巡廻調査ヲ遂ケ候儀モ
可有之尤其節ハ巡廻日限前以可相達候條印紙貼用ノ帳
簿ハ無遺漏調査ヲ受クヘキ事

第七條

○第一類 附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿ノ期限

○第二類 相滿候節ハ其帳簿ニ第五號書式ノ通奥書ノ上調印致マ
置前條官員巡廻ノ節差出檢印ヲ受クヘキ事

第四則賞罰例

第一條

證券界紙相用フヘキ證券類ニ證券界紙ヲ用ヒサル者ハ
脱稅高ノ拾倍 則拾 其證券ヲ受取タル者ハ
脱稅高ノ拾倍 則拾 過料タルヘキ事

第二條

○第一類
○第二類ノ證券類ニ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱稅高
○第三類

ノ貳拾倍其證書ヲ受取タル者ハ脱税高ノ拾倍過料タル
ヘキ事

第三條

○第一類ノ諸帳簿ヘ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱税高
ノ貳拾倍過料タルヘキ事

第四條

○第一類証券印紙貼用ノ帳簿見積金高附込相濟餘白ノ
紙數之レアルトテ第三則第四條ヲ犯シ更ニ証券印紙ヲ
貼用セズ猶附込候者ハ脱税高ノ拾倍過料タルヘキ事

第五條

第三類ノ諸帳簿ヘ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ脱税高
ハ無印紙ニテ一ケ年未滿相用フル者ハ則貳拾錢ノ脱税
ニケ年未滿相用フル者ハ則四拾錢ノ脱税ニ當ル類ナリ
以上之レニ準シ一ケ年以内貳拾錢ノ六倍過料タルヘキ
事

第六條

第三類證券印紙貼用ノ帳簿期限相滿餘白ノ紙數之レアル
トテ第三則第四條ヲ犯シ更ニ證券印紙ヲ貼用セズ猶
附込候者ハ脱税高
警書上ノ四倍過料タルヘキ事

第七條

諸證書帳簿ニ証券印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ其減税

○一
高ノ拾倍過料タルヘキ事

第八條

一規則ニ從テ貼用セシ諸證書帳簿ノ証券印紙ニ調印セ
サル者ハ三拾圓以下ノ過料タルヘキ事

第九條

一証券印紙ヲ貼用セサル歟又ハ印紙不足ナル歟或ハ貼
用ノ印紙ニ調印セサル歟又ハ界紙可相用諸證書ニテ
界紙ヲ用ヒサル證書ヘ証人ニ相立又ハ奧書致シ候者
ハ貳拾五圓以下ノ過料タルヘキ事

第十條

一官許賣捌所ノ外ニ於テ第一則第四條ニ背キ証券
○印紙
○印紙
界紙ヲ賣捌致シ候者ハ其品取上ケ既ニ賣捌タル
○印紙
○印紙
代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ
○印紙
○印紙
代ノ五拾倍過料タルヘキ事

第十一條

一証券印紙貼用致スヘクシテ全ク貼用無之諸帳簿ニ調
印イタシ候者ハ其人毎ニ帳簿主ヨリ取立候過料高百
分ノ一ツ、各過料タルヘキ事

第十二條

一一旦相用ヒ調印セシ証券印紙ヲ再用センドシテ之ヲ

剝取リ調印ヲ洗滅スル者或ハ洗滅シタルモノヲ賣買
スル者ハ六拾圓以下ノ過料タルヘキ事

第十三條

一 證券 ○印紙 ○界紙
ヲ贗造スル者又ハ贗造セシ品ト知テ是ヲ
賣買スル者ハ都テ九拾圓以下ノ過料タルヘキ事
一 前數條ニ掲クル處ノ犯則人ヲ見届ケ訴出ル者アルハ
ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其過料
金ノ半高ヨ下サルヘキ事

第五則 附錄

第一條

一 諸證書ニ外國貨幣ヲ以テ記載セル分ハ其節ノ相場ヲ
以テ內國通貨ニ計算シ其高ニ應シ印紙貼用致スヘキ事

第二條

一 公債証書類ハ其証書面ノ金高ニ掲ハラズ賣買ノ正金
高ヲ以テ計算シ其高ニ應シ印紙貼用致スヘキ事

第三條

一 官ノ金穀諸拜借証文ノ儀衆庶一般ノ災厄ヨリ起レル
救助ニ關スル分ハ ○印紙 ○界紙
ヲ用フルニ及ハサレモ其餘
ノ諸拜借ハ總テ借用金穀証文規則ノ通タルヘキ事

第四條

四一一

一 印紙貼用アル諸証書ヲ事故アリテ書改候節ハ新証書
へ更ニ印紙貼用致スヘキ事

第五條

一 凡ソ諸證書帳簿ニ誤リテ過剩ノ印紙貼用セル者ハ其
証ニ於テ紡ケナキ事

第六條

一 諸証書ヲ差戻シ又ハ諸切手類現品引替ノ節戻主ニテ
嘗テ調印アル印帛面ヲ塗消シ或ハ引裂キ相戻スヘキ事

第七條

一 各所問屋ヲ經テ送致スル荷物送狀ヲ途中宿湊ニ於テ

其儘繼送候節ノ添狀ハ印紙貼用ニ及ハサレモ右荷物
ヲ引分ケ各別ニ差送候節ノ新規送狀ハ規則ノ通印紙
貼用致スヘキ事

第八條

一 爲取換約定書ノ類ハ雙方トモ印紙貼用致スヘキ事

第九條

一 院省使府縣廳ニ於テ銀行又ハ爲換方等へ貢金其他官
金相預ケ候節
○預リ料
○利息
又ハ手数料等受用致シ候分ハ
假令官金ト雖モ預金證文或ハ預リ金通帳へ第二類
○預リ料
○利息
又ハ手数料等無之分ハ第一類ノ印紙貼用可

五一

致事

第十條

一五圓貳拾圓兩種ノ印紙ハ印紙賣捌ノ許可ヲ受タル各
地銀行並ニ各府縣廳爲換方御用相勤候者ニ限リ爲賣捌
候事

第十一條

一印稅規則ニ相觸候證書並ニ帳簿ヲ授受致候儀相顯レ
規則ノ通科料金差出候後ニ至ツテモ其證書帳簿ハ取
揚ケ裁判不相成事

第十二條

一前條ニ掲クル證書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ
受取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚
ケ裁判可致事

第十三條

一第十一條ニ掲クル證書ノ内界紙可相用處他紙ヲ相用
候證書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於
テ其證書ヘ壹錢印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁
判可致事

第十四條

一第十一條ニ掲クル帳簿ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル

節ハ帳簿主ニ於テ相當印紙ヲ貼用シ調印済ノ上ハ取揚ケ裁判可致事

第十五條

一 甲乙等ノ號ヲ各帳ヘ記付シ同金高ヲ記載シ彼我ニ各一帳ツ、所持シテ相互ニ交換致ス通帳ノ類ニ冊トモ後証トナルヘキモノハ甲乙トモ印紙貼用致スヘキ事

第十六條

一 旅行先ニ相用ヒ候帳簿ハ其管轄地ニテ官員巡廻ノ節調査ヲ受ケ候共又ハ出先ニテ官員巡回ノ節調査ヲ受候トモ便宜ニ任スヘキ事

第十七條

一 最初帳簿附込見積金高百圓以内ト見込印紙貼用セズ官員ノ調査ヲ受サルモノ漸々附込相崇ニ誤テ百圓以上ニ及ヒ候者ハ附込金高貳百圓以内ニテ他ヨリ發覺セサル以前ニ印紙貼用調印ノ上其管轄廳ヘ差出調査ヲ受候ニ於テハ犯則ノ限ニ無之事

第十八條

一 印紙多數用フル節證書面狹隘ニテ貼用シカタキ分ハ證書裏面ヘ貼用致シ第二號圖ノ通調印イタスヘキ事

第一號圖

證書渡主之實印

證

一金何圓何拾錢

一金何十圓

印紙

金何拾圓何十錢

右之通、、、、、

年號月日 何之誰印

何之誰殿

證書渡主之實印

證

印紙

同

一金何百何拾圓

右者、、、、、

年號月日 何之誰印

何之誰殿

第二號圖

證書渡主之實印

同	同	印紙
同	同	同
	同	同
	同	同
	同	同
	同	同

第三號書式

帳簿主之實印

印紙
同

此帳附込見積金何千圓

年號月日

第四號書式

帳簿主之實印

印紙
同

此帳附込何々年限

年號月日

式書號五第

第一類ハ

合附込金何千何百圓也

第三類ハ

何年何月ヨリ 滿何ケ年附込濟
何年何月マデ

右之通聊相違無御座候以上

年號月日

何之誰印

○天政官第八拾九號 明治七年 本年七月第八十一號布告証券
八月卅日

印稅規則第五則ノ第九條ヲ削去シ更ニ第二則中へ左ノ

一箇條相加候條此旨布告候事

一院省使府縣廳ニ於テ銀行又ハ爲換方等へ貢金其

他官金預ケ候節預リ金証文並ニ預リ金通帳ハ

印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事

○天政官第四號 明治八年 明治七年七月第八拾一號布告証券
一月廿日

印稅規則第五則第十條自今削除候條此旨布告候事

○天政官第百三拾六號 明治七年十月 本年七月第八拾壹號布告
二月廿四日

五二一 證券印稅規則第二則第一條第二類并ニ三類諸証書中左

之通加除更正明治八年三月二日ヨリ施行候條此旨布告
候事

第二則第一條第二類中爲換手形並ニ置手形及ヒ荷爲換
手形ノ二項ヲ除キ左ノ一項ヲ加フ

一 諸品賣買仕切書

右之仕切書ハ

書面金高拾圓未滿ハ 界紙ニモ及ハス

同斷金高拾圓以上 印稅壹錢

同斷金高廿圓以上 同 貳錢

同斷金高三拾圓以上 同 三錢

同斷金高四拾圓以上 同 四錢

五拾圓未滿ハ
右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致
スヘシ

第二則第一條第三類中へ左ノ三項ヲ加フ

一 爲換手形

一 荷爲換手形

右之手形ハ

書面金高五拾圓未滿ハ 界紙ニモ不及

同斷金高五拾圓以上 印稅壹錢

同斷百圓以上 同 貳錢

百五拾圓未滿ハ

同斷金高百五十圓以上
貳百圓未滿ハ

印稅三錢

同斷金高貳百圓以上
貳百五十圓未滿ハ

同 四錢

右以上幾許ノ高ニ至ルルニ總テ之ニ準シ印稅增加致ス
ヘシ

○太政官第百三拾七號 明治七年十月廿五日 本年七月第八十一號布告

証券印稅規則第五則中へ左ノ一箇條追加候條此旨布告
候事

一委任狀ノ儀ハ都テ界紙ヲ相用ヘキ事

○太政官第百十一號 明治七年十月二十二日 本年七月第八十一號布告証

券印稅規則中ニ記載有之証券印紙ノ内五錢拾錢五拾錢

壹圓五圓貳拾圓六種ノ見本左ノ通候條此旨布告候事

○太政官第拾壹號 明治八年二月二日 明治七年十二月 第百三拾七號布

告証券印稅規則第五則中追加ノ儀ハ明治八年四月一日

ヨリ施行候條此旨更ニ布告候事

○大藏省甲第八號 明治八年三月十七日 人民財産ノ受授并ニ交際上

相用候諸帳簿ノ儀ハ証券印稅則之通其類ニ應シタル印

紙ヲ一帳毎ニ類別ヲ以貼用可致等ニ候得共若シ一帳中

へ第一類第二類ヲ取交付込度モノハ其合計見積金高ニ

九二一 應シタル第二類印紙ヲ別紙圖式ノ通貼用致置候上ハ一

帳簿へ雜記候トモ不苦候條此旨布達候事

但第三類帳簿ニ第一類ヲ雜記致シ度節ハ第三類ノ印紙貼用ノ外本文ニ準シ第二類ノ印紙ヲ並へ貼用可致候尤一類而已チ雜記致ス節ハ第一類ノ印紙ヲ並へ貼用可致事

〇太政官第五拾壹號 明治八年 四月十日 明治七年 八月 第八拾壹號布告

證券印稅規則第四則中左ノ通改正增加候條此旨布告候事

〇證券印稅規則

〇賞罰例

第四則

第七條改正

一 諸證書帳簿ニ證券印紙ヲ不足ニ貼用セシ者ハ其減稅高ノ拾倍其證書受取タル者ハ減稅高五倍ノ過料タルヘキ事

第八條但書增加

但其調印セサル證書ヲ受取タル者ハ渡主ニ科スル半高ノ科料タルヘキ事

第十五條增加

一 証券印紙貼用スヘキチ界紙ニ認メ渡ス者ハ減稅高ノ

拾倍其証書受取タル者ハ減稅高五倍ノ過料タルハキ
事

○証券印紙

○太政官第百貳拾號 明治八年七月二十二日 諸商業又ハ諸職業ニテ各
應ヨリ用向被申付候者ヨリ差出候受書類ノ中其事柄受
負并約定筋ニ相涉リ候モノハ自今証券印稅規則第二則
第一條第二類諸証書中諸受負証文及ビ金錢約定証文ニ
照シ証券印紙界紙可相用此旨布告候事

但本文同様ノ受書ニシテ金高記載セサル分ハ同規則
中第三類金高記載無之約定証書ニ準シ証券界紙可相

用事

○太政官第百貳拾六號 明治八年八月八日 明治七年七月第八拾壹號布

告証券印稅規則第二則第一條第一類同第二類諸証書中

ハ米并ニ雜穀預リノ項左ノ通追加候條此旨布告候事

第二則第一條第一類諸証書中

一預リ米 ○證文
○手形

一預リ雜穀 ○證文
○手形

右ノ証書ハ 米高五石雜 以上總テ壹錢ノ印稅 米高五石
穀高拾石 雜穀高拾

石 未滿ハ界紙ヲ用フヘシ

同第二類諸証書中

四三一

- 一 預り米 ○証文 但使用ヲ爲サ、ル明分無之分
- 一 預り雜穀 ○証文 但使用ヲ爲サ、ル明分無之分

○賣藥規則

○太政官第七號 明治十年 賣藥規則別冊之通相定候條此旨
 布告候事

○賣藥規則

第一章

第一條

此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸瀉膏藥煉藥水藥散藥煎藥等家方ヲ以テ合劑シ販賣スルモノヲ云フ

第二條

此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ヲ經由シテ內務省ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條

內務省ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥取締

五三一

ニ關係スルモノハ之ヲ許サザルヘシ

第四條

第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノハ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受シヘシ

第五條

賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持スル官許公文ノ寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳へ願出内務省ノ免許鑑札ヲ受シヘシ

第六條

賣藥營業者及ヒ請賣者共ニ必ク免許ノ看板ヲ掲シヘシ

第七條

賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲シメント欲スルキハ其由ヲ管轄廳へ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商ナル時ハ必ク之ヲ所持スヘシ

第八條

營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五ヶ年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得シ

ト欲スル者ハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第九條

第八條ニ記シタル期限内第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ
免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナス
ヘシ

第十條

免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有毒品ナ
ルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノ
コアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコアルヘ
シ

第十一條

營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及ヒ
賣子共其販賣ヲ許サズ

第十二條

諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其
仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條

免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願
書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條

○四一

賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ免許鑑札ヲ改ムルコ及ハスト雖モ其由ヲ届出ツヘシ

第十五條

賣藥營業者廢業シ若シハ禁止セラレタルキハ營業者勿論其請賣者コ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條

賣藥營業者及ヒ請賣者ハ左之通税金并鑑札料ヲ上納スヘシ

賣藥營業稅

藥劑一方コ付一ケ年

金 二圓

右鑑札料

藥劑一方ニ付一枚

金 二十錢

賣藥請賣鑑札料

藥劑ノ方數ニ拘ハラヌ

一枚 金 二十錢

賣藥行商鑑札料

藥劑ノ方數ニ拘ハラヌ

一人一枚 金 二十錢

第十七條

一四一

水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ

二四一

其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條

税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限り
後半年分ハ翌年一月三十一日限り鑑札料ハ其都度管轄
廳ニ上納スヘシ

第十九條

税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢
業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘ
シ

但第十條ノ有毒品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限り月割

ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ

第三章

第二十條

無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル
者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商
シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付
五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條

三四一

無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請
賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ

四四一

貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條

免許ヲ受ケヌシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條

無鑑札ニテ營業スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十四條

諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條

私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條

五四一

以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取証ノ上

一四六

相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高キ與フヘシ
○太政官第拾六號 明治十年 本年一月第七號ヲ以テ賣藥規則
布告候處該規則第三章罰則ノ儀ハ來ル六月一日ヨリ施
行候條此旨更ニ布告候事

(但書畧)

○太政官第拾九號 明治十年十月 本年一月第七號布告賣藥規則
二月廿八日

中第一條第五條第拾四條左之通改正候條此旨布告候事

第一條

此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散
藥煎藥等ヲ調製シ效能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ

第五條

賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許可ヲ得タルモノハ
族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及
ビ營業者ト取結タル約定書トヲ添エ其管轄廳ニ願出免
許鑑札ヲ受ケ管轄廳ハ之ヲ內務省ニ届出ヘシ

第拾四條

賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ
相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ニ鑑札名前書換ヲ請フ

ハシ

一四七

○內務省乙第拾四號 明治九年 製煉藥品之儀ハ本邦ニ於
五月八日

テモ往々舶來品ニ勝レル良品モ有之處只管輸入品ヲ安
 信シ概シテ國產ヲ卑ムノ風ニ流レ價惡藥之輸入日ヲ逐
 テ増加シ其損害不尠ニ付自今製造品試驗ノ上其良否ヲ
 鑑定シ免許鑑札相渡スヘシ候條醫療用工職用ヲ不問藥
 品製煉致シ候者ハ其製造品相添左之箇條書ニ從ヒ願出
 許可ノ上販賣致シ候様可取計此旨相達候事

但シ阿片製造人ノ儀ハ詮儀ノ次第有之候條當分地方
 限リ開届置昨八年當省乙第百五拾六號達ニ照準シ可

取計事

製藥免許手續

一製藥人ハ屬籍住所姓名等詳記シタル願書貳通ヲ作り
 其製品ヲ添エ管廳ニ出サシメ管廳ハ之ニ添書シテ内
 務省ニ出スヘシ

一製品ハ各地ノ便宜ニ就キ最寄司藥場ニ送致シ試驗ヲ
 受ケ其譯添書ニ追申スヘシ

一試驗之上良品ナルモノハ免許鑑札ヲ交付シ若シ其製
 造十全ナラサルモノハ本人ノ志願ニヨリ司藥場ニ於
 テ製煉ノ方法傳示スヘシ

一製藥許可ヲ得タルモノハ官許ノ文字ヲ冒シタル商標
 ニ藥名及ヒ其住所姓名ヲ記シ每器ニ貼シテ販賣スヘ

但、藥名ハ國字洋文兩様共記載スルハ勝手タルヘ
シト雖モ洋文ノミヲ書スヘカラス必ス普通ノ譯名
或ハ譯名無之モノハ假名ニテ原名ヲ記スヘシ

輪縁銅板唐草料紙西洋紙

番號 製藥免許之証

衛生局長之印

何府何國何郡何村町何番地

何之誰

一同

一同

右製造免許候事

年號月日 内務卿 某

内務卿印

二五一

○文部省報告第三拾六號 明治七年十二月二十八日 本省賣藥檢查之趣

意ハ有害之方劑ヲ禁スルニ在リ無害之方劑ハ効ナキ者ト雖モ姑ク之ヲ存シテ發賣ヲ禁セズ故ニ免狀ヲ與フルハ只其害ナキヲ保ツノミコソ必其藥ヲ以テ有効之良劑ト定メ之ヲ世ニ證スルニ非ラス世人或ハ免狀授與ノ趣意ヲ誤マル者アラソクナ慮リ今更ニ之ヲ報告ス

○內務省甲第拾九號 明治八年十月二十七日 藥品之儀ハ重要ノモノニ

候得ハ贗惡之品不取扱様最注意可致事ニ有之逐次取締方法可相立處ヨリドカリ、キニ一チノ二藥ハ特ニ緊要有力ノ品柄ニ付右二品ヲ始トシテ本年十月一日ヨリ先

以三府ニ於テ賣買上取締罰則施行相成候ニ付各司藥場ニ於テ檢査ノ分ハ眞贋精粗ノ證トシテ左ノ見本ノ印紙ヲ瓶口ニ貼附候條心得トシテ此旨布達候事
追テ各地方ニ於テ眞贋鑑別難出來モノハ願ニ依リ無費ニテ試驗可致遣候條最寄司藥場ニ差出可申事

(但シ見本略ス)

○內務省甲第七號 明治十年四月十日 甲第拾九號ヲ以

テ司藥場檢査印紙之儀及布達候處今般右印紙並毒劇藥標記別紙之通改正增加候條此旨布達候事

三五

但シ當分從前之檢査印紙取交セ相用候事(別紙畧ス)

○毒藥劇藥取扱規則

○法政官第貳拾號 明治十年二月十九日 藥品中性効峻烈ニシテ若其
用方チ誤ル時ハ人命ヲ傷害スヘキモノ少カラズ然ルチ
或ハ輕忽ノ取扱有之候テハ實ニ不容易儀ニ付右取扱規
則左之通相定候條此旨布告候事

○毒藥劇藥取扱規則

一藥品中其効力峻劇ニシテ直ニ生命ヲ傷害スルニ足ル
ヘキ者ヲ毒藥ト唱ヘ其性効毒藥ノ如ク強烈ナラサル
モ其用量ニ依テ容易ク危害ヲ生スヘキモノヲ劇藥ト
稱ス其目如左

毒藥

亞砒酸

ホーレル水

(亞砒酸) 其他砒
カリ水) 石製劑

昇汞

(第二コロール汞)

白降汞

(コロールアミット汞)

赤降汞

(赤色酸化汞)

第一沃汞

(第一ヨ) 黃色ノ者

第二沃汞

(第二ヨ) 赤色ノ者

硝酸亞酸化汞

燐

(ホスホル)

青酸

(シヤン水素酸)

青酸加里

(シヤンカリウム)

アトロピーチ

其他アトロ

ストリキニーチ

ビーチ鹽類

ヘヲトリーチ

其他ストリキ

アコニチチ

コニーチ

揮發苦扁桃油

(蒸餾シ得タルモノ)

モルヒチ

其他モル

コロ、フォルム

ヒチ鹽類

劇藥

ヨード

其他ヨード製劑

ブローム

ヨード加里

(ヨード、カリウム)

臭素加里

(ブローム、カリウム)

腐蝕加里

(苛性加里)

腐蝕ソーダ

(苛性ソーダ)

皓礬

(硫酸亞鉛)

其他亞鉛製劑

硝酸銀

其他銀製劑

鹽化金ナトリウム

其他金製劑

鉛糖

(醋酸鉛)

其他鉛製劑

騰鑿

(硫酸銅)

銅礪鑿

(硫酸アン)其他銅
(モニヤ銅)製劑

甘汞

(第一コロール汞)

ビスミット

(鹽基性硝酸蒼鉛)

硫酸カドミウム

吐酒石

其他アンチ
モン製劑

硝酸

硫酸

摻酸

鹽酸

コロラルヒドラーイト

石炭酸

サントコリー子

(セマン
ソート)

ヨードフォルム

苦扁桃水

老利兒水

(ラウリールケルス水)

巴豆

巴豆油

芥子油

コロダイン

阿片

其他
製劑

吐根

同上

雙鸞菊球根

同上

ハルレボリ根

(藜蘆) 其他
製劑

萹蓄葉

其他
製劑

ヤイラツツパ根及ビ脂

其他
製劑

ヒヨス葉

其他
製劑

シキタリス葉

同上

シキユータ葉

其他
製劑

蔓陀羅華葉

同上

サビナ葉

同上

コロシント實

同上

コルシクム實

同上

カラハル豆

同上

班猫

(莞菁)

同上

番木鱉子

同上

右ハ現今日常使用スル所ノ毒藥十九種劇藥四拾六種
ヲ掲ルモノヨシテ專ラ世人ノ解シ易キガ爲ニ普通ノ
名稱ヲ用フ此他新發明新舶載ノ藥品及ヒ其性効ノ確
知シカタキモノハ先ツ司藥場ニ出シテ試驗ヲ受ケ藥

効ノ劇易ヲ判シタル上ニアラザレハ販賣スルコトヲ許
サス

一毒藥劇藥ハ在來商標ノ外別ニ必ス本邦普通ノ名稱
(或ハ仮名)ヲ記シタル名標ヲ貼附スヘシ
(コ原名)

一毒藥劇藥ハ別段ニ戸棚或ハ箱等ヲ製シテ之ヲ貯藏シ
他ノ藥品ト混雜スヘカラス

一毒藥劇藥ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外醫師藥
商化學家及工職家ヨリ需要ノ趣意ヲ記シタル証書ヲ
以テ求ムルニ非サレハ決シテ販賣スルヲ許サス

一前條ノ規則ニ據リ毒藥劇藥ヲ販賣スルキハ其藥名分

量年月日及ヒ買人ノ住所姓名ヲ別帳ニ記載シ買人ヨ
リ送ル所ノ証書ヲ貯ヘ置ヘシ

但幼少ノ者及替者聾者等其他不能力ノ者ニハ一切
付與スベカラス

一醫師ノ處方書ニ據テ毒藥ヲ調合シタルキハ其藥名分
量用法年月日醫師及ヒ患者ノ住所姓名ヲ別帳ニ詳記
シ處方書ヘ割印スヘシ

一毒藥劇藥ヲ取扱タル調劑器ハ其時々必ス丁寧ニ洗淨
拭清スヘシ且ツ砒石及ヒ水銀劑ノ用器ハ他ノ藥品ノ
用ニ當ツヘカラス

四六一

右之規則ニ悖リテ毒藥劇藥ヲ販賣シタルモノハ五拾圓
以內ノ罰金ヲ科スヘシ

○酒類稅則

○太政官第貳拾六號 明治八年 明治四年 七月 布告酒造取締并
二月廿日
ニ稅則及ヒ追々増補等ノ條共本年九月三十日限り相廢
シ更ニ酒稅規則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候
條此旨布告候事

但濁酒醬油醬麴ノ稅ハ本文同日ヨリ相廢シ候事

○酒類稅則

第一則 營業稅 釀造稅

第一條

一 清酒味淋燒酎白酒醪酒 米雜穀菓實何品ニ限ラズ釀造
シ又ハ蒸餾シテ酒トナスモノ
一 酒造營業又ハ請賣 他ヨリ受 營業致度者ハ其管轄廳
切 賣候モノ
へ申立免許鑑札ヲ受ケ一期ノ營業稅トシテ一期毎ニ

左ノ通上納可致事

酒造營業稅 壹種ニ付 金拾圓

酒類請賣營業稅 金五圓

五六一

但營業免許ノ期限ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期ト相定候條右一期中何月ニ新規營業候共營業免許ノ節其一期分ノ全額ヲ直ニ納税可致事

第二條

一酒造營業ノ者ハ酒類賣捌代價拾分ノ一金壹圓ニ釀造付キ拾錢釀造税トシテ年々上納可致事
但價額ハ前年十月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ平均相場ヲ以テ管轄廳ニ於テ相定候事

第三條

一釀造税納期ハ毎年四月三十日限リ前年平均相場比例ヲ以テ定管轄廳殘金ハ七月ニ至リ平均相場確定ノ後上納九月三十日限リ管轄廳ニ皆納可致事

第四條

一酒造營業ノ者ハ其一期造高見込ノ石數毎年十月中管轄廳ニ可届出事
但營業初年ハ免許鑑札ヲ受ケ候節直チニ其一期中造高見込ノ石數可届出事

第五條

一請賣營業ノ者ハ酒類請賣所ト書タル看板ニ免許鑑札

ノ番號ヲモ書如ヘ戶外ヘ掲ケ可申事

第二則 鹽札検査 醸造検査

第一條

一 免許鹽札ハ毎年十月中管轄廳ニ於テ検査ヲ遂ケ其一期免許濟ノ証トシテ鑑札裏面ニ干支ノ印ヲ押シ可相渡候條管轄廳ヨリ相達次第鹽札差出検査ヲ受ケ營業稅上納可致事

但廢業ノ者ハ其節鑑札返納可致事

第二條

一 免許鑑札若シ水火盜難等ヨテ失却候節ハ其旨管轄廳

ヘ届出新規鑑札可申受事

但手数料トシテ金貳拾錢可相納事

第三條

一 免許鹽札ハ貸借決シテ不相成事

但免許鑑札賣買讓與又ハ改名代替轉居等ノ節ハ其

旨管轄廳ヘ申立候ハ、鹽札引換可相渡尤前條手数料

料金貳拾錢可相納事

第四條

一 酒類拾石以上醸造高検査トシテ時宜見計管轄廳主任ノ官員巡視可致候條検査前ハ一切賣捌不相成候事

但釀造高拾石以下並ニ拾石以上タリトモ季節ニ拘
ハラズ釀造蒸餾ノ酒類ハ官員巡視ヲ待ニ及ハズ區
戶長ニ於テ精取檢査ヲ遂ケ其時々石數届出候上ハ
賣捌不苦事

第五條

一釀造稅管轄廳へ上納皆濟期限前非常ノ災害或ハ腐敗
等ノ儀有之節ハ其旨直チニ管轄廳へ届出主任ノ官員
檢査ノ上他ノ品類ニ變製シ販賣スル者ハ其賣代價拾
分ノ一ヲ上納シ全ク廢業ニ至ル者ハ其石數ニ係ル釀
造稅上納ニ不及事

但檢査濟ノ腐敗酒ヲ以テ有稅ノ酒類ニ變製候共其
酒類ニ屬スル營業稅ハ別段上納ニ不及事

第六條

一若シ非常ノ災害或ハ腐敗等ノ儀其節届出スシテ檢査
ヲ受ケサル者ハ既ニ届出タル石數ヲ以テ釀造稅上納
可致事

第三則 賞罰例

第一條

一免許鑑札ヲ受ケズ密造營業致シ候者ハ其酒類ハ勿論
器械共取上ケ壹石ニ付金七拾五錢ノ割ヲ以テ科料可

申付事

但密造酒類既ニ賣捌キ候ハ、其代金取上ケ可申事

第二條

一 免許鑑札借受酒造營業致シ候者ハ前條密造同様處分致シ貸渡候者ハ一期營業稅五倍ノ科料可申付事

第三條

一 釀造高檢査ヲ受ケヌ又ハ檢査ノ際造高ヲ隱蔽シ賣捌キ候者ハ其賣代金取上ケ密造同様ノ科料可申付事

第四條

一 免許鑑札ヲ受ケヌ請賣營業致シ候者ハ一期營業稅五

倍ノ科料可付申事

第五條

一 免許鑑札ヲ借受ケ請賣營業致シ候者ハ前條同様ノ科料申付貸渡候者ハ一期營業稅ノ三倍科料可申付事

第六條

一 區戸長ニ於テ檢査ノ節不正ノ取計致シ候歟或ハ不正ノ情ヲ知リ見遁シ候儀有之ニ於テハ律ニ照シ處分可致

事

第七條

一 前條々ニ掲ケタル處ノ犯則入ヲ見届ケ訴出ル者アル

四七一

時ハ事實取札ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ科料金
并ニ取上ケ品概高金拾圓ニ付壹圓崩下サルベキ事

○太政官第八拾壹號 明治十年十
二月五日 明治八年二月第貳拾六號

布告酒類稅則中左ノ通改正追加候條此旨布告候事

一 濁酒釀造營業ノ者ハ免許鹽札申受ケ營業稅每一期ニ

付金五圓釀造稅費捌代價貳拾分ノ壹金壹圓ニ
付五錢 年々上

納可致事

一 酒類請賣營業ノ者從來御小賣ヲ論セス金五圓ツ、課

稅候處向後御賣ハ金拾圓小賣ハ金五圓年々營業稅ト

シテ上納可致事

但御賣營業鹽札ヲ受ケ小賣ヲ兼候者ハ別段小賣營

業鑑札ヲ願受ルニ及スト雖モ小賣營業鹽札ヲ受ケ

御賣ヲ兼候儀ハ不相成候事

一 酒類營業人ノ中行商ヲナス者ハ行商鑑札其管應ヨリ

申受ケ必ス提携可致尤一戸一枚ニ限ラス願ニ依リ何

枚ニテモ可相渡候條鑑札料ハ每一枚ニ付金拾錢ツ、

上納可致事

一 酒類ヲ請賣スル者ハ假令飲食店ト雖モ請賣鹽札申受

ケ營業稅上納可致事

五七一

一行商鹽札ハ貸借決シテ不相成候條若シ貸借スル者ア

六七一

ルキハ其鑑札取上ケ枚數ニ應シ鑒札料拾倍ツ、ノ科料
可申付右鑑札ヲ所持セスシテ行商ヲナスモノハ鑒札
料貳拾倍ノ科料可申付事

○太政官第貳拾八號

明治十一年九月二十八日

明治八年二月第二十六號

布告酒類稅則同年七月第百二十二號布告同則追加十年二月
第八十一號布告同則追加共更ニ左ノ通改正追加シ本年
十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

○明治八年第二十六號布告酒類稅則

第一則中

第二條 酒造營業免許ヲ受タル者ハ其造數ニ應シ釀造

稅トシテ年々左ノ通上納可致事

一 清酒一石ニ付金壹圓○濁酒同金三十錢○白酒同金

貳圓○味淋同金貳圓○燒酎同金壹圓五拾錢○銘酒同

金三圓

第三條 釀造稅ハ每年四月三十日限リ見込届石數ニ相

當スル税金ノ半額ヲ上納シ殘餘ハ九月三十日限リ皆納

可致事

第二則中

第四條 造酒ハ地方廳主任官員檢査可致候條其時宜可

七七一

届出候事

八七一

但本文検査ノ外主任官員臨時巡回シ酒モと并ニモ
み其他酒造ニ用フル元米等ヲ検査スルヲ可有之事

第五條 釀造税地方廳へ上納皆濟期限前非常ノ災害或
ハ腐敗等ノ儀有之候節ハ其旨直ニ地方廳へ届出主任ノ
官員検査ノ上他ノ有税酒類ニ變製スル時ハ更ニ其酒類
ニ屬スル營業税ハ別段上納ニ不及候事

第七條 酒造營業免許ノ者ハ検査未濟ノ酒類ヲ販賣シ
又ハ自家ノ飲料贈物等ニ供シ候儀ハ不相成候事

但検査ノ後自飲等ニ供スル分ト雖ヒ其釀造税ハ免除
不致候事

第八條 清酒摺リ器械へハ主官官員ノ封印ヲ附シ置キ
常ニ之ヲ用フルヲ許サス候條使用ノ節ハ其旨届出開封
ヲ請フベキ事

第三則中

第六條 検査ノ際其造石數ヲ隱蔽シ未タ賣捌カサル者
ハ其酒類ヲ取揚タル上壹石ニ付金七十五錢ノ割ヲ以テ
科料可申付事

九七一

第七條 造石検査未濟ノ酒類ヲ自飲等ニ用フル者アル
時ハ其數ニ係ル釀造税ヲ徵收スルハ勿論壹石ニ付金七
十五錢ノ割ヲ以テ科料可申付事

第八條 検査官ノ許可ヲ得ズシテ猥リニ器械ノ封印ヲ

解披スル者ハ金十五圓以下六圓以上ノ科料可申付事

〇明治八年第百二十二號布告同追加ノ中

第六條 酒造營業免許ノ者ハ何種類ヲ問ハス他家ノ造

酒ヲ買受ケ販賣スルニ於テハ受賣營業稅可相納事

第七條 削除

〇明治十年第八十一號布告同追加ノ中

第一項中(醸造稅賣捌代價二十分ノ一金一圓ニ年々)

ノ二十一字ヲ削除ス

〇車稅規則

〇太政官第貳拾七號 明治八年 明治六年 第三拾壹號布告
二月十日

僕婢馬車人カ車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三

十一日限リ相廢シ尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七

年二月第貳拾壹號布告解漁船并ニ海川小廻船等船稅規則

ニ照準收稅シ車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月

同日ヨリ施行候條此旨布告候事

〇車稅規則

第一則

一馬車貳匹立以上

壹箇年稅金三圓

二八一

- 一同 壹匹立 壹箇年税金貳圓
 - 一荷積馬車 壹箇年税金壹圓
 - 一人力車貳人乘 壹箇年税金貳圓
 - 一同 壹人乘 壹箇年税金壹圓
 - 一牛車 壹箇年税金壹圓
 - 一荷積大七六八車 壹箇年税金壹圓
 - 一同中小車 壹箇年税金五拾錢
- 但大六以下

第二則

一新調ノ車ハ總テ其郡度區戶長へ届出檢印可申受事

但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

一右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長へ取集メ其管轄廳へ可相納事

三八一

但前半年分ハ其年七月三十一日限リ後半年分ハ翌

年一月三十一日限リ其管轄處へ可相納事

第五則

一荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則

一諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅

高ノ五倍科料タルヘキ事

○鳥獸獵規則

○太政官第拾壹號 明治十年一月二十三日 鳥獸獵規則別紙ノ通改正候

條此旨布告候事

○鳥獸獵規則

第一條

小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノ

タメニスルヲ遊獵トス

第二條

銃獵免狀ナキモノハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸

ヲ除クカタメニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與

フヘシ

第三條

銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名
年齢ヲ詳記シ東京府下ニ於テハ内務省其他ハ該地方官
廳へ差出スヘシ

第四條

免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ
若シハ授受スルコトヲ禁ス

第五條

免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ

一 職獵稅

金壹圓

一 遊獵稅

金拾圓

第六條

水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル時ハ速ニ東
京府下ニ於テハ内務省其他ハ該地方官廳ニ届出ヘシ再
ヒ免狀ヲ願受ル者ハ更ニ税金ヲ納ムルニ及ハスト雖モ
手数料トシテ金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

第七條

左ニ記列シタル者ニハ免狀ヲ付與セサルヘシ

一 拾六歳未滿ノ者

一 白痴風癪等ノ者

一 故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシモノ

第八條

左ニ記列シタル場所ニ於テハ銃獵ヲナスヲ禁ス

一 都府市街ハ勿論衆人群集ノ場所

一 銃丸ノ達スヘキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離ノ

場所

一 禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃貳挺ヲ交叉シタル圖ノ下ニ銃獵

禁制ノ四字ヲ記シ掲ケ置シヘシ

一 作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限

アラズ

第九條

獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ

軍銃ヲ用フルヲ禁ス

第十條

銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期ト

ス是時限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景況ニヨリ已ムヲ得ス此期限ヲ伸縮スル時